

## 『三菱UFJ信託銀行×三菱UFJ国際投信』 オンラインセミナー

# 長期の資産運用に欠かせない コア資産としてのバランス型運用 ～トレンド・アロケーション・オープンの魅力～

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは



三菱UFJ信託銀行

三菱UFJ信託銀行株式会社  
登録金融機関 関東財務局長(登金)第33号  
加入協会：日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

設定・運用は



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

※ 本映像は「トレンド・アロケーション・オープン」(以下「トレアロ」ということがあります。)について投資家のみなさまにご理解いただくために概略を記載したものです。このため、ファンドの商品性、リスク、お申込みメモ等については投資信託説明書(交付目論見書)をご確認いただく必要があります。

【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

# 目次

1. 当ファンドの特色と3つの運用戦略……………P2
2. コロナショック以降、直近までの運用状況……………P7
3. 設定来の運用実績と投資環境および今後の運用について……………P18

# 1 当ファンドの特色と3つの運用戦略

2 コロナショック以降、直近までの運用状況

3 設定来の運用実績と投資環境および今後の運用について

# 当ファンドの主な特色

- 1 世界各国の株式・債券・リート等の幅広い資産へ、実質的に投資します。
- 2 安定的な資産成長のために、市場環境に応じて機動的な資産配分を行います。
- 3 為替変動リスクの低減をはかるため、外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行います。  
為替ヘッジを行う場合、金利差相当分以上の為替ヘッジコストがかかる場合があります。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

# 3つの運用戦略【①基本戦略】



## 【基本戦略】基本資産配分

(トレンド・アロケーション)

世界中の様々な資産を投資対象とし、効率的な資産配分を目指します。資産配分比率の決定にあたっては、市場サイクル分析の結果を基にしています。

### ■ 資産クラス分け

投資対象を、各資産のリスクに基づき、低リスク資産クラスと高リスク資産クラスに分類します。

※低リスク資産クラスと高リスク資産クラスのカテゴリは、資産毎の価格変動性等を基に行っており、必要に応じて見直すことがあります。

※右図の分類は2021年7月末現在です。

### ■ 基本資産配分比率の決定

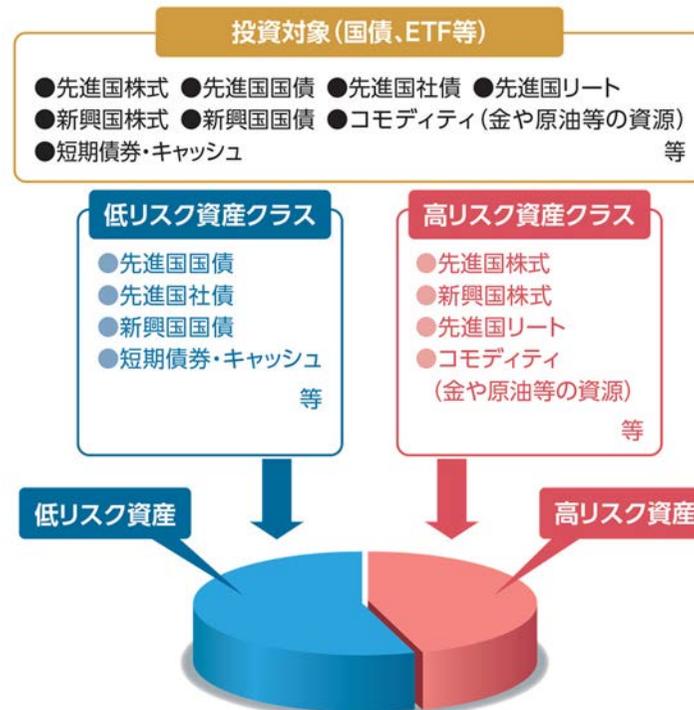
上昇トレンドの傾向が強い資産への配分比率を高めるなど、値動きの方向性等に基づいて、各資産の基本的な配分比率を決定します。

※原則、月に一度基本資産配分比率の見直しを実施しています。(2021年7月末現在)



DMAPF<sup>\*</sup>では為替変動リスクの低減をはかるため、外貨建資産については原則として為替ヘッジを行っています。

\*DMAPF: アリアンツ・グローバル・インベスターズが運用を行うダイナミック・マルチアセット・プラス・ファンド(JPY)



※上記の図は、低リスク資産の配分比率が高リスク資産の配分比率より高い場合のイメージ図であり、逆の場合や片方の資産のみとなる場合もあります。

※各項目は、あくまでダイナミック・マルチアセット・プラス戦略のイメージを表すためのものであり、実際にこのような運用を行うとは限りません。また、将来の投資成果をお約束するものではありません。なお、あくまでイメージであり一部簡略化して記載している部分があります。

※短期間で乱高下を繰り返すような相場環境、投資対象資産が全て下落するような相場環境等、価格トレンドが不安定あるいは不鮮明な場合には、トレンド・アロケーションによって当初想定したリターンを得られない可能性があります。

【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

# 3つの運用戦略【②補完戦略】



## 【補完戦略】基本資産配分に対する微調整

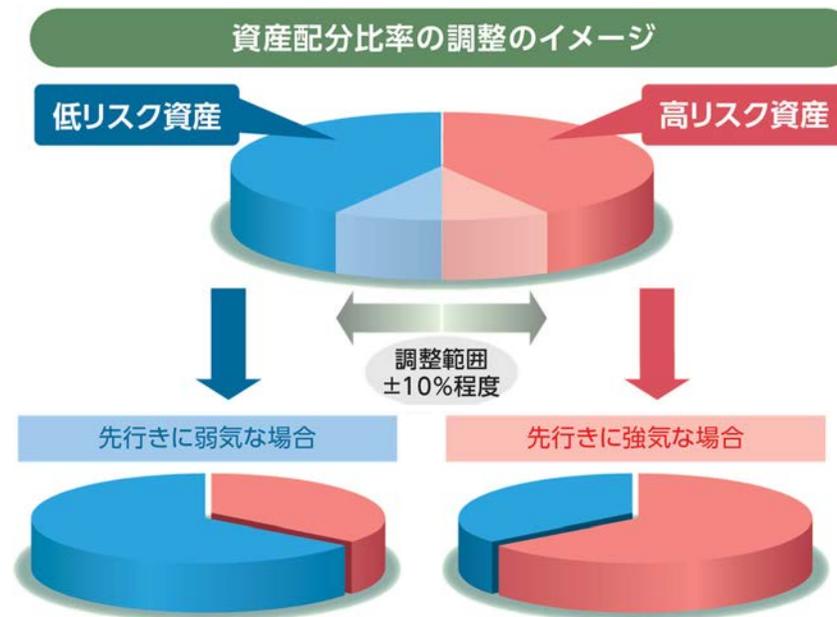
(タクティカル・アセット・アロケーション)

### ■ 運用専門家の見通しを反映

経済環境や市場環境等について定性・定量分析による将来予想を行い「市場の転換点」を捉えます。

運用専門家の見通し「経済サイクルとバリュエーションの分析」を反映しつつ、資産配分比率の調整を行い、補完戦略としてパフォーマンスの向上を図ります。

※基本資産配分の結果、低リスク資産と高リスク資産の比率が50%:50%となった場合のイメージ図です。  
※上記は運用戦略のイメージです。実際の運用は、必ずしも上記の通り行われるとは限りません。



※各項目は、あくまでダイナミック・マルチアセット・プラス戦略のイメージを表すためのものであり、実際にこのような運用を行うとは限りません。また、将来の投資成果をお約束するものではありません。なお、あくまでイメージであり一部簡略化して記載している部分があります。  
※短期間で乱高下を繰り返すような相場環境、投資対象資産が全て下落するような相場環境等、価格トレンドが不安定あるいは不鮮明な場合には、タクティカル・アセット・アロケーションによって当初想定したリターンを得られない可能性があります。

【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

# 3つの運用戦略【③リスク管理戦略】



## 【リスク管理戦略】下落リスクへの対応

(ダウンサイド・リスク・マネジメント)

過去1年の高値からの下落率が15%以内に収まることを目指します。必要に応じて、低リスク資産と高リスク資産の配分比率を維持したまま、短期債券・キャッシュ等の組入比率を高めます。これにより、下落時のファンドの値動きが緩やかになることが期待されます。

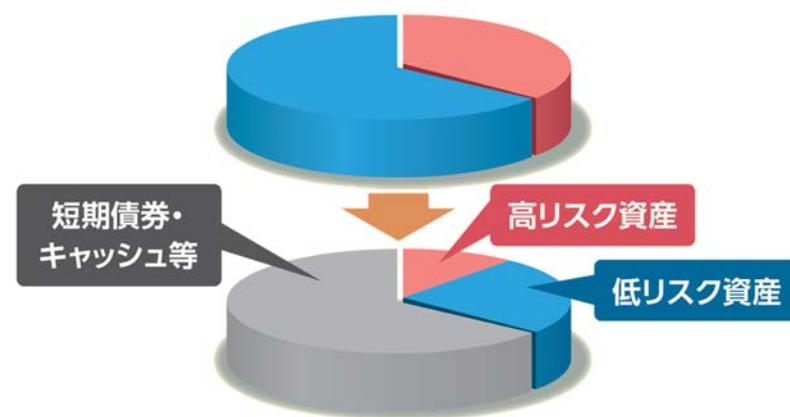
※必ずしも最大下落率が15%以内に収まることを保証するものではありません。

※リスク管理戦略では、過去1年間の高値と現在の値から算出した最大許容損失率(ある時点の基準価額が、過去1年間の高値から15%下の水準まで下がる時の損失率)と現時点の推定最大損失率を比較し、必要に応じて短期債券やキャッシュ等の比率を高めることでリスク量を調節します。下落率が15%を超えた場合は、推定最大損失率が回復するまでの間、短期債券やキャッシュ等の比率の高い運用を継続することがあります。

※上記の図は、ダウンサイド・リスク・マネジメントにおいて短期債券・キャッシュ等を一部組入れる場合のイメージ図であり、短期債券・キャッシュ等を組入れない場合(0%)や、短期債券・キャッシュ等のみとなる場合(100%)もあります。

※ダウンサイド・リスク・マネジメントにおける短期債券・キャッシュ等の配分比率が0%であったとしても、ポートフォリオ全体としては、低リスク資産内において短期債券・キャッシュ等が組入れられている場合があります。

ダウンサイド・リスク・マネジメントを発動する場合のイメージ



市場環境やファンドのパフォーマンスが改善してくると、短期債券やキャッシュ等の組入比率も減少することとなります。

※各項目は、あくまでダイナミック・マルチアセット・プラス戦略のイメージを表すためのものであり、実際にこのような運用を行うとは限りません。また、将来の投資成果をお約束するものではありません。なお、あくまでイメージであり一部簡略化して記載している部分があります。

※ダウンサイド・リスク・マネジメントは過去1年間の高値からの下落率を考慮して行うため、購入時期や保有期間によっては、想定以上の損失を被る可能性があります。

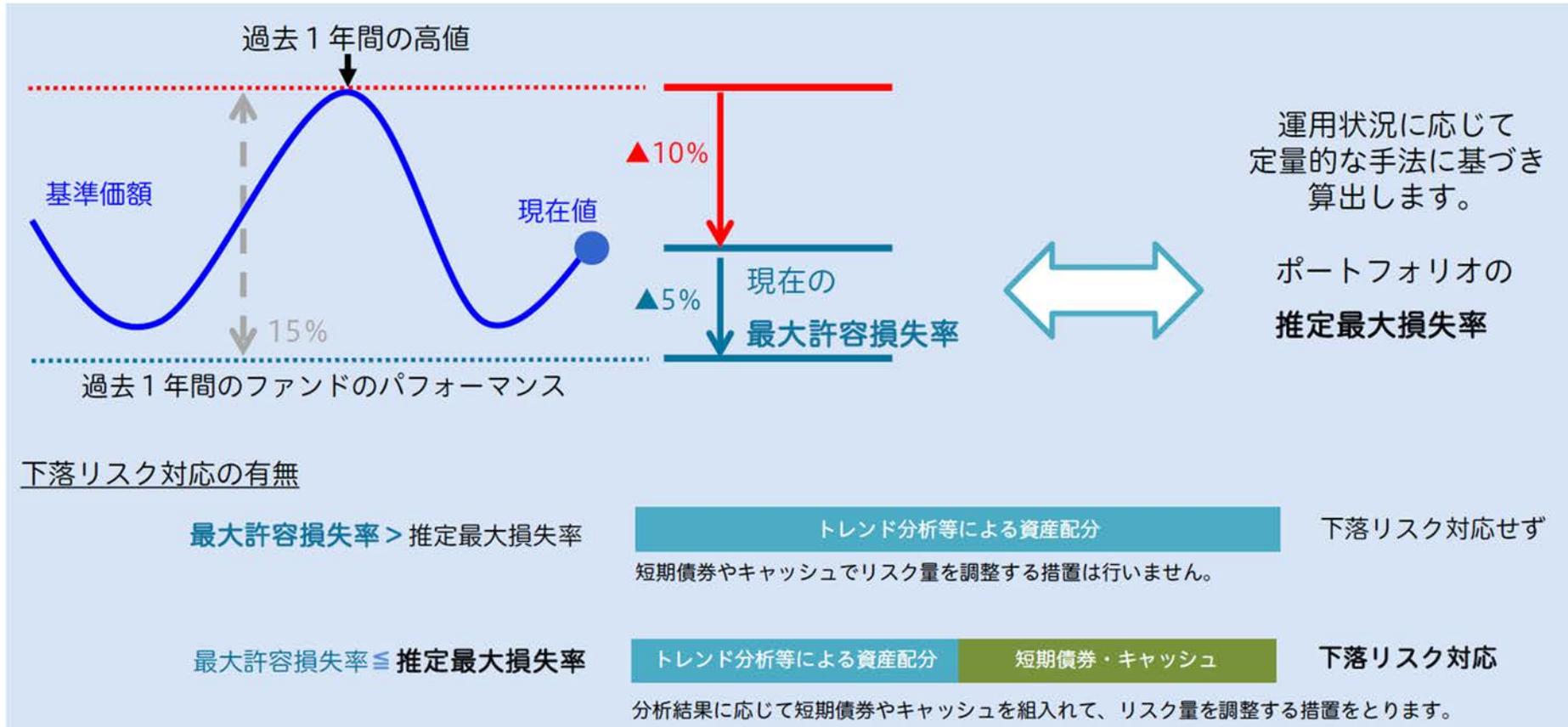
【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

1 当ファンドの特色と3つの運用戦略

**2** コロナショック以降、直近までの運用状況

3 設定来の運用実績と投資環境および  
今後の運用について

# 下落リスク対応の仕組み



※上記の事例はあくまでイメージであり、運用状況などによっては別の手段を取ることや、記載通りの対応ができないことがあります。

※トリアロは、過去1年間の高値からの下落率を15%以内に抑えることを目指す運用戦略を有していますが、厳密には主要投資対象の外国籍投信において実施される運用戦略です。また同戦略は下落率を過去1年間の高値から必ず15%以内に収めることをお約束するものではありません。

【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

# 2020年3月13日時点の状況



※トリアロは、過去1年間の高値からの下落率を15%以内に抑えることを目指す運用戦略を有していますが、厳密には主要投資対象の外国籍投信において実施される運用戦略です。また同戦略は下落率を過去1年間の高値から必ず15%以内に収めることをお約束するものではありません。

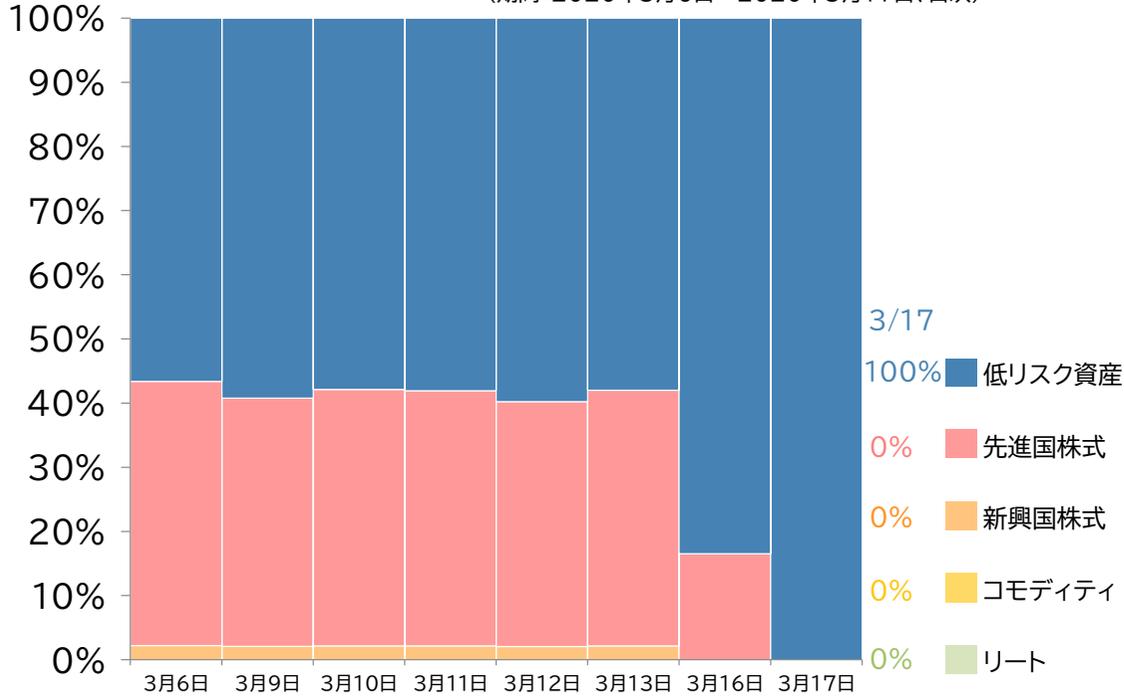
・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。

【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

# 2020年3月の臨時基本資産配分比率見直しの状況

## 資産配分比率の推移(日次)

(期間:2020年3月6日~2020年3月17日、日次)



・上記はDMAPファンドの純資産総額対比を各時点で計算・表示したものです。

## 資産配分詳細(2020年3月17日時点)

分類	比率	資産名	比率
高リスク資産	0.0%	日本株式	0.0%
		米国株式	0.0%
		欧州株式	0.0%
		スイス株式	0.0%
		英国株式	0.0%
		オーストラリア株式	0.0%
		カナダ株式	0.0%
		新興国株式	0.0%
		コモディティ	0.0%
		リート	0.0%
低リスク資産	100.0%	日本国債	1.5%
		米国国債	24.4%
		ドイツ国債	0.0%
		フランス国債	2.6%
		英国国債	0.0%
		イタリア国債	5.9%
		スペイン国債	0.0%
		米国インフレ債	5.0%
		投資適格社債	11.0%
		新興国国債	0.0%
		現金等	49.6%

(出所)アリアンツ・グローバル・インベスターズの情報提供を基に三菱UFJ国際投信作成

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

# S&P500の1日の下落率、株価推移とVIX指数

## S&P500の1日の下落率ランキング

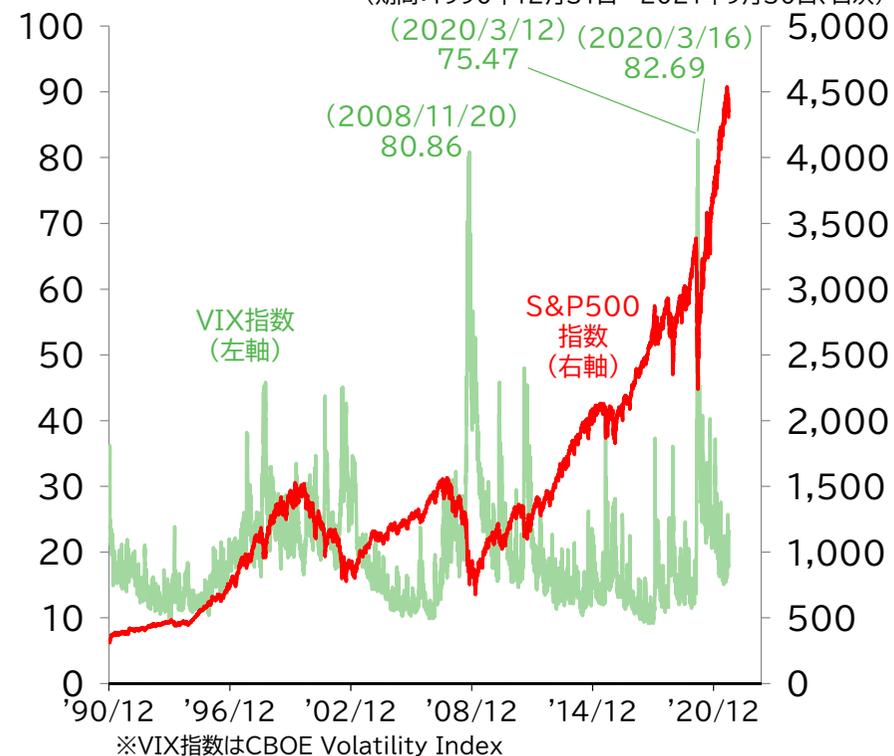
(期間:1963年12月31日～2021年9月30日、日次)

順位	日付	下落率
1	1987年10月19日	-20.5%
2	2020年3月16日	-12.0%
3	2020年3月12日	-9.5%
4	2008年10月15日	-9.0%
5	2008年12月1日	-8.9%
6	2008年9月29日	-8.8%
7	1987年10月26日	-8.3%
8	2008年10月9日	-7.6%
9	2020年3月9日	-7.6%
10	1997年10月27日	-6.9%

※1987年はブラック・マンデー  
 ※2008年はリーマン・ショック  
 ※2020年はコロナ・ショック

## 米国株式(S&P500)とVIX指数

(期間:1990年12月31日～2021年9月30日、日次)



(出所)Datastreamを基に三菱UFJ国際投信作成

・ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

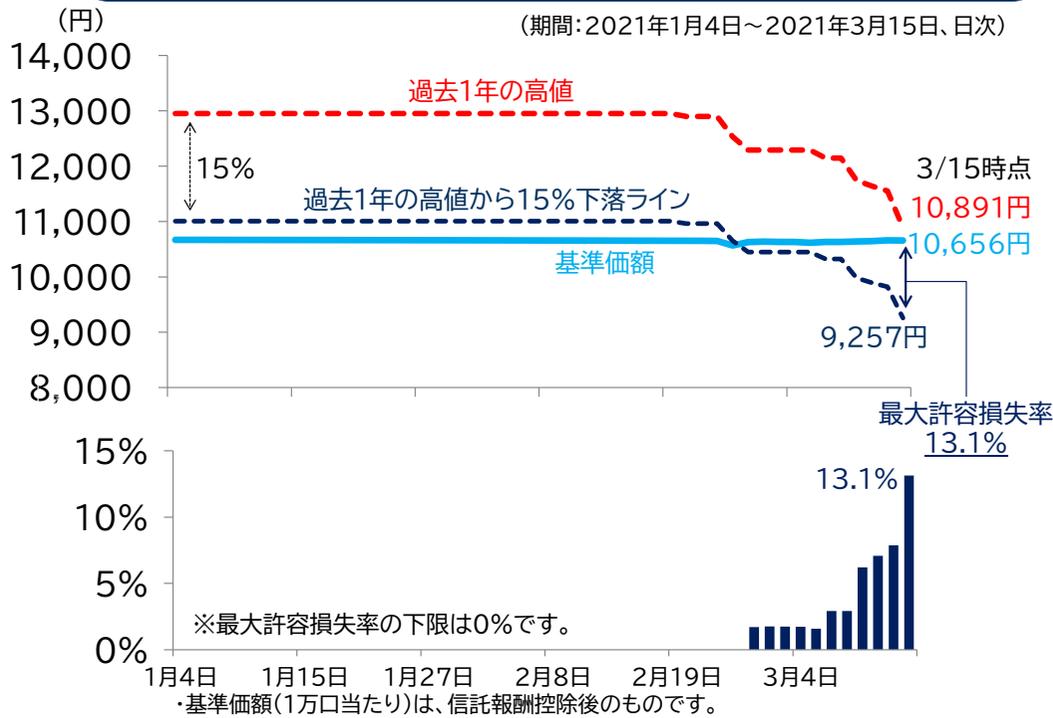
# 高リスク資産組み入れ再開の条件は？

**条件1.** 基準価額が上昇し、ファンドがリスクを取れる状態まで回復した場合

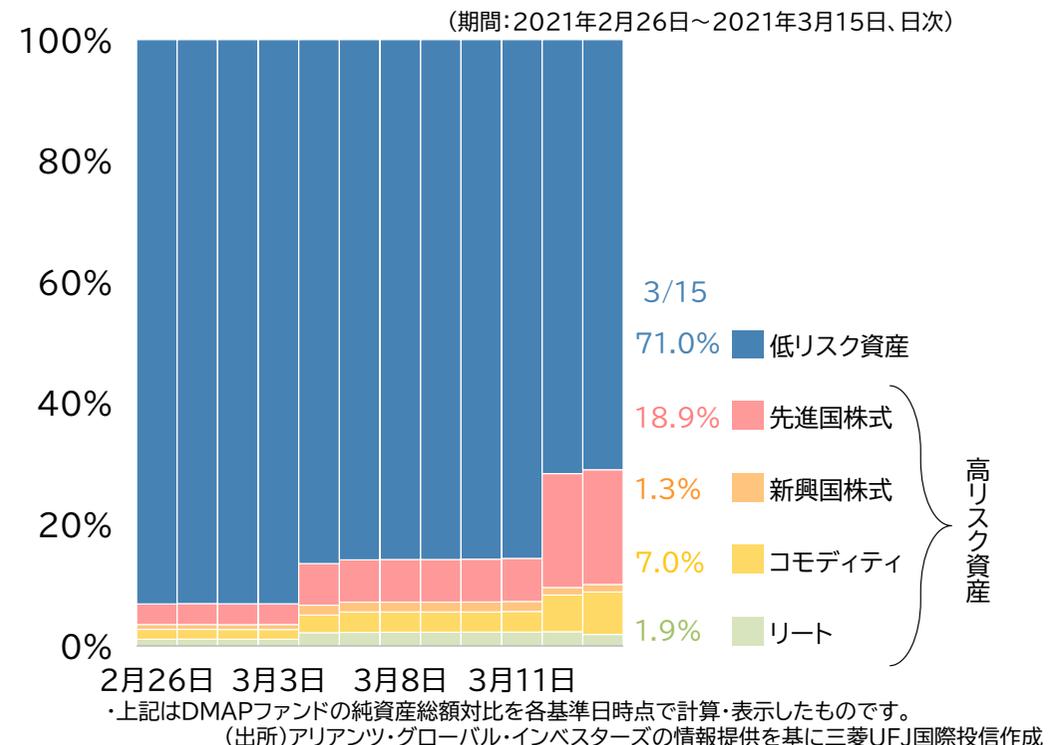
**条件2.** 時間の経過に伴い、過去1年の高値が当時の水準(2020年2月20日の12,950円)より低下することで許容できるリスクが回復する場合

# 高リスク資産組み入れ再開の背景

## 2021年初来の基準価額等(上段)と最大許容損失率(下段)の推移



## 資産配分比率の推移



※トリアロは、過去1年間の高値からの下落率を15%以内に抑えることを目指す運用戦略を有していますが、厳密には主要投資対象の外国籍投信において実施される運用戦略です。また同戦略は下落率を過去1年間の高値から必ず15%以内に収めることをお約束するものではありません。

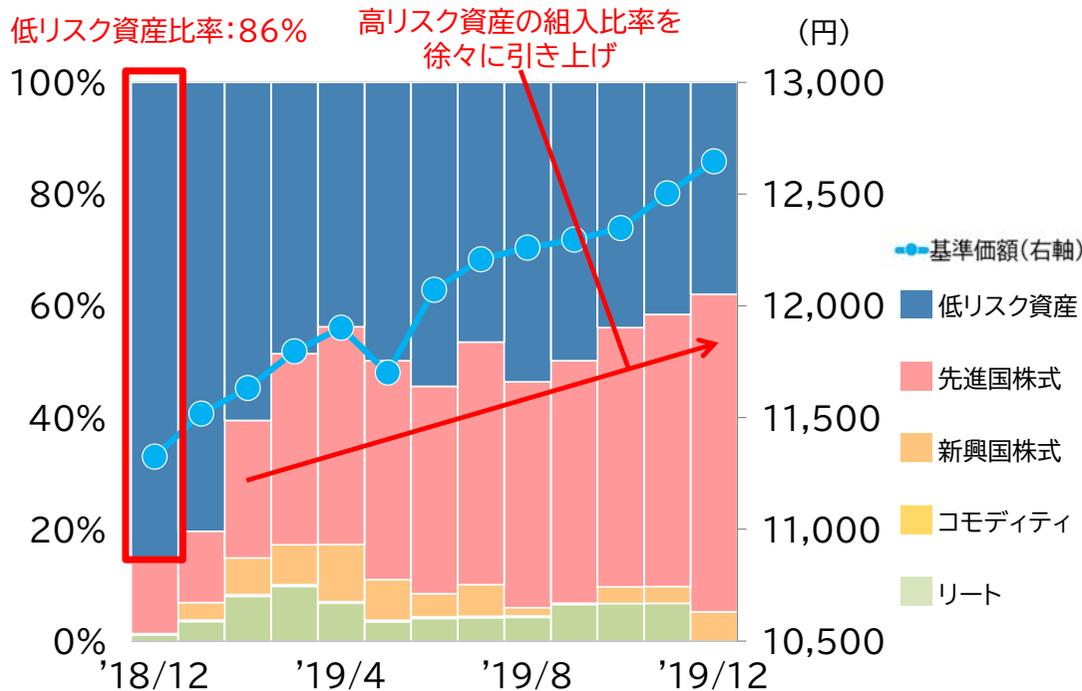
・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

# (ご参考)過去に高リスク資産を徐々に組み入れた運用事例

## 過去の資産配分比率の推移

(期間:2018年12月~2019年12月、月次)



・基準価額(1万口当たり)は、信託報酬控除後のものです。・上記はDMAPファンドの純資産総額対比を各月末時点で計算・表示したものです。

(出所)アリアンツ・グローバル・インベスターズの情報提供を基に三菱UFJ国際投信作成

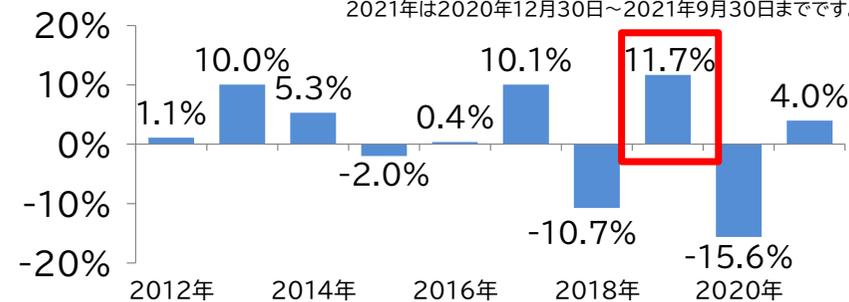
## 基準価額(上段)と年次リターン(下段)

(期間:2012年3月30日(設定日)~2021年9月30日、日次)



(期間:2012年~2021年\*、年次)

\*2012年は2012年3月30日(設定日)~2012年12月28日、  
2021年は2020年12月30日~2021年9月30日までです。



・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。

[本映像に関するご注意事項]を必ずご覧ください。

# 2021年初から9月末までの運用状況①

## 2021年初来の基準価額の推移

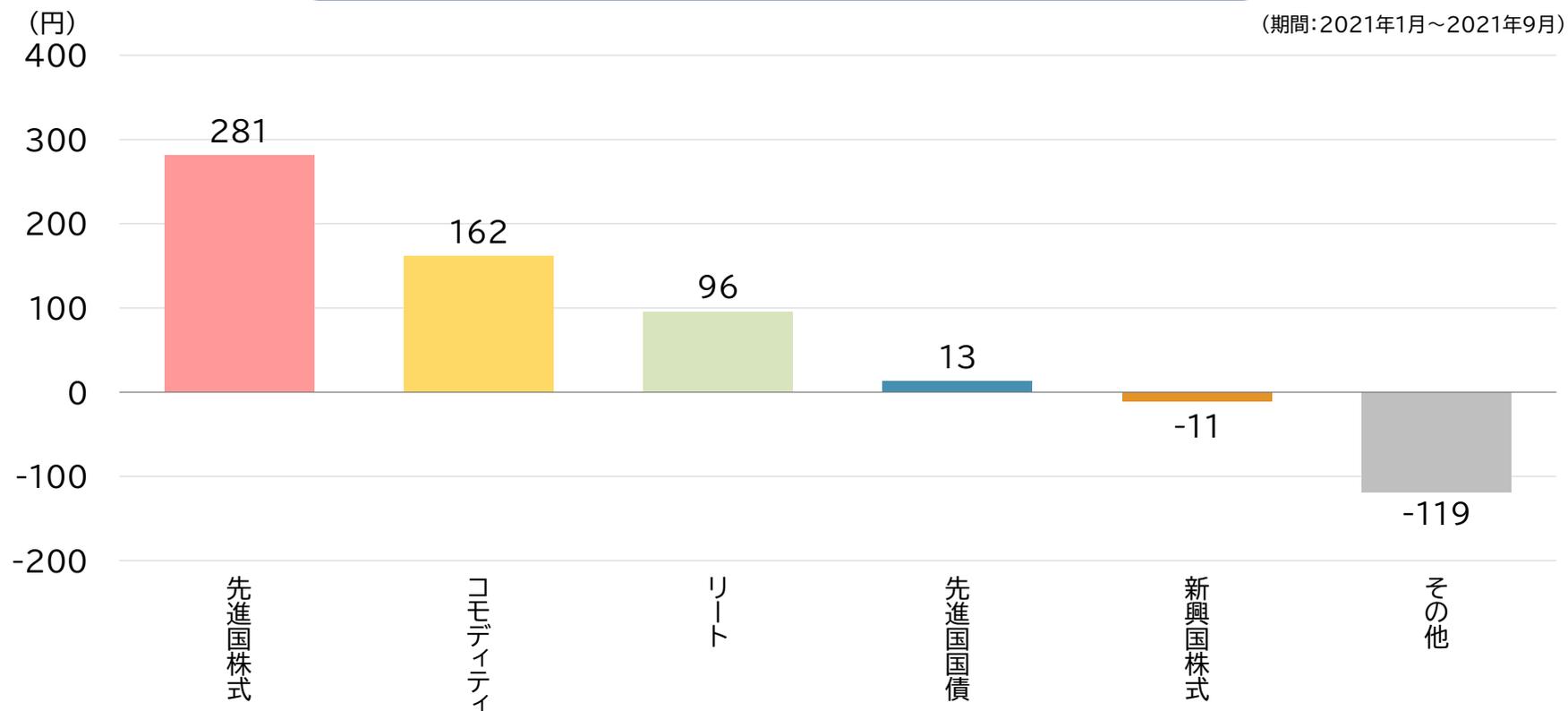


・基準価額(1万口当たり)は、信託報酬控除後のものです。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。  
【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

# 2021年初から9月末までの運用状況②

## 2021年初来の基準価額変動要因(抜粋)の累積(概算)



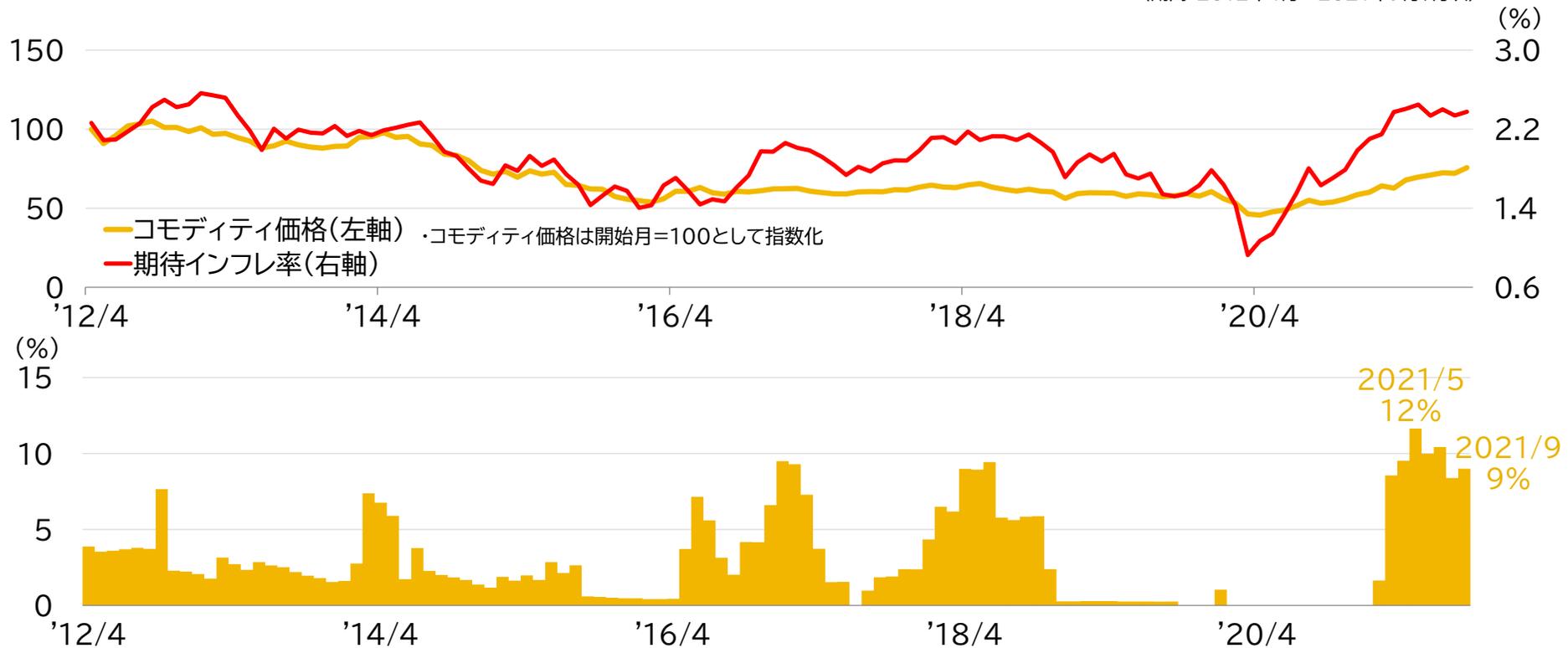
※上記の要因分解は、基準価額(1万口当たり)に与えた影響等をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その正確性、完全性を保証するものではありません。  
※その他には、為替ヘッジコストや信託報酬等があります。

・ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。  
【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

# 2021年初から9月末までの運用状況③

## コモディティ価格と期待インフレ率(上段)／トレアロのコモディティ組入比率(下段)

(期間:2012年4月～2021年9月、月次)



・コモディティ価格は、ブルームバーグ商品指数(トータルリターン、米ドルベース)、期待インフレ率は、米ブレイクイーブンインフレ率10年を使用。  
 ・コモディティ組入比率はDMAPファンドの純資産総額対比を各月末時点で計算・表示したものです。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。

【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

- 1 当ファンドの特色と3つの運用戦略
- 2 コロナショック以降、直近までの運用状況
- 3 設定来の運用実績と投資環境および今後の運用について**

# 設定来の運用実績

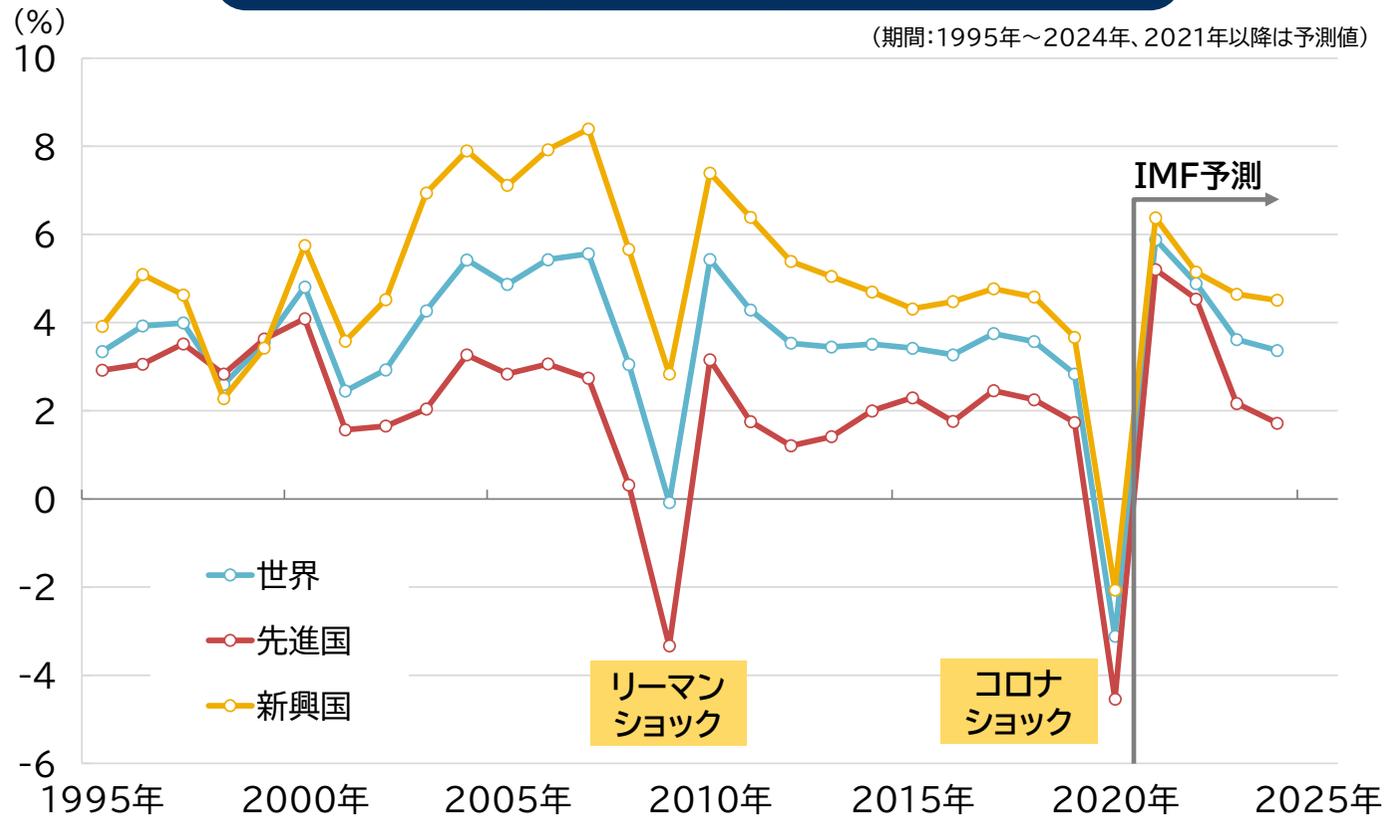
## 基準価額および純資産総額の推移



・ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。  
【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

# 投資環境① 経済正常化のペース

## 世界の実質GDP成長率の推移



・先進国・新興国の分類および予測はIMFによります。一部IMFの推計値を含みます。

(出所)IMF World Economic Outlook Database October 2021のデータを基に三菱UFJ国際投信作成

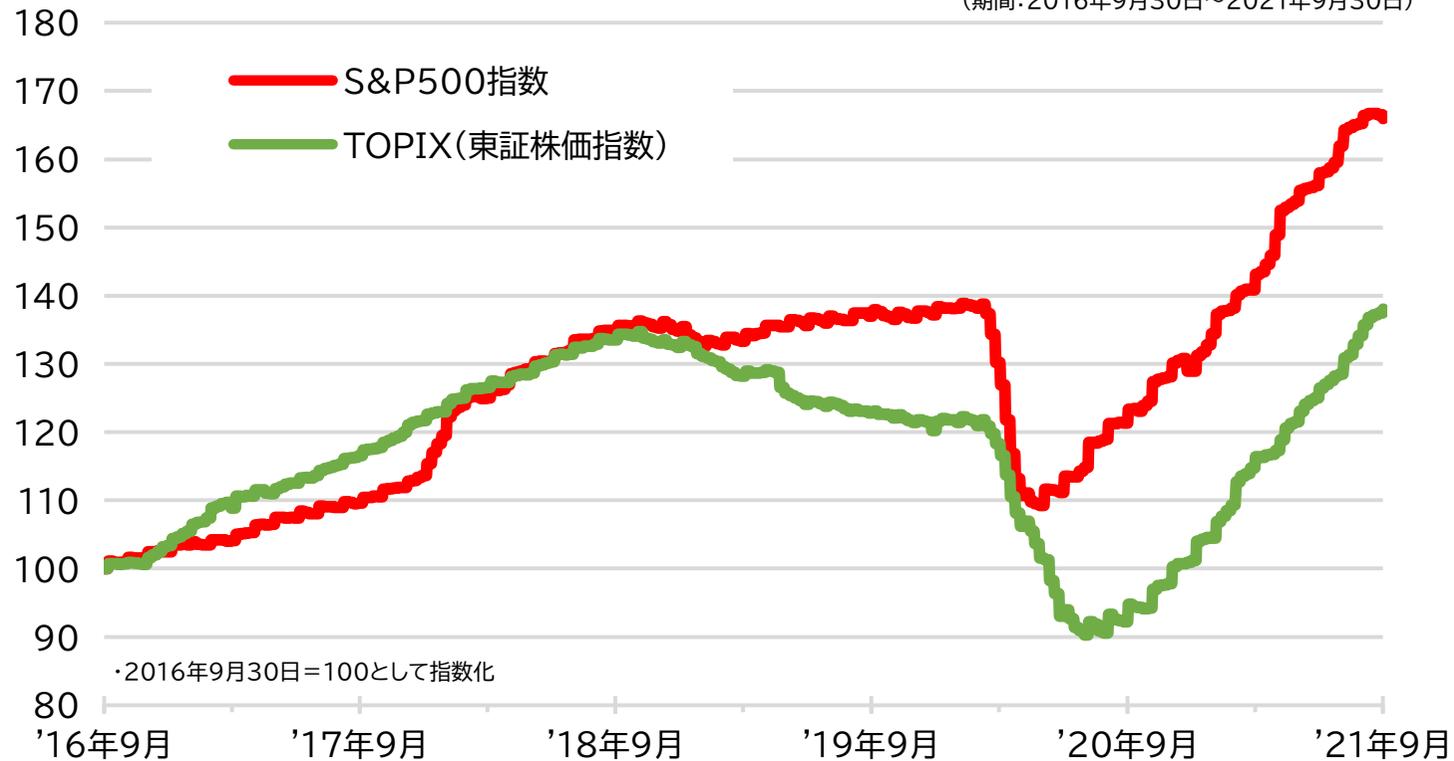
・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

# 投資環境② 回復する日米の企業業績

## 米国株式、日本株式の予想EPS\*

(期間:2016年9月30日~2021年9月30日)



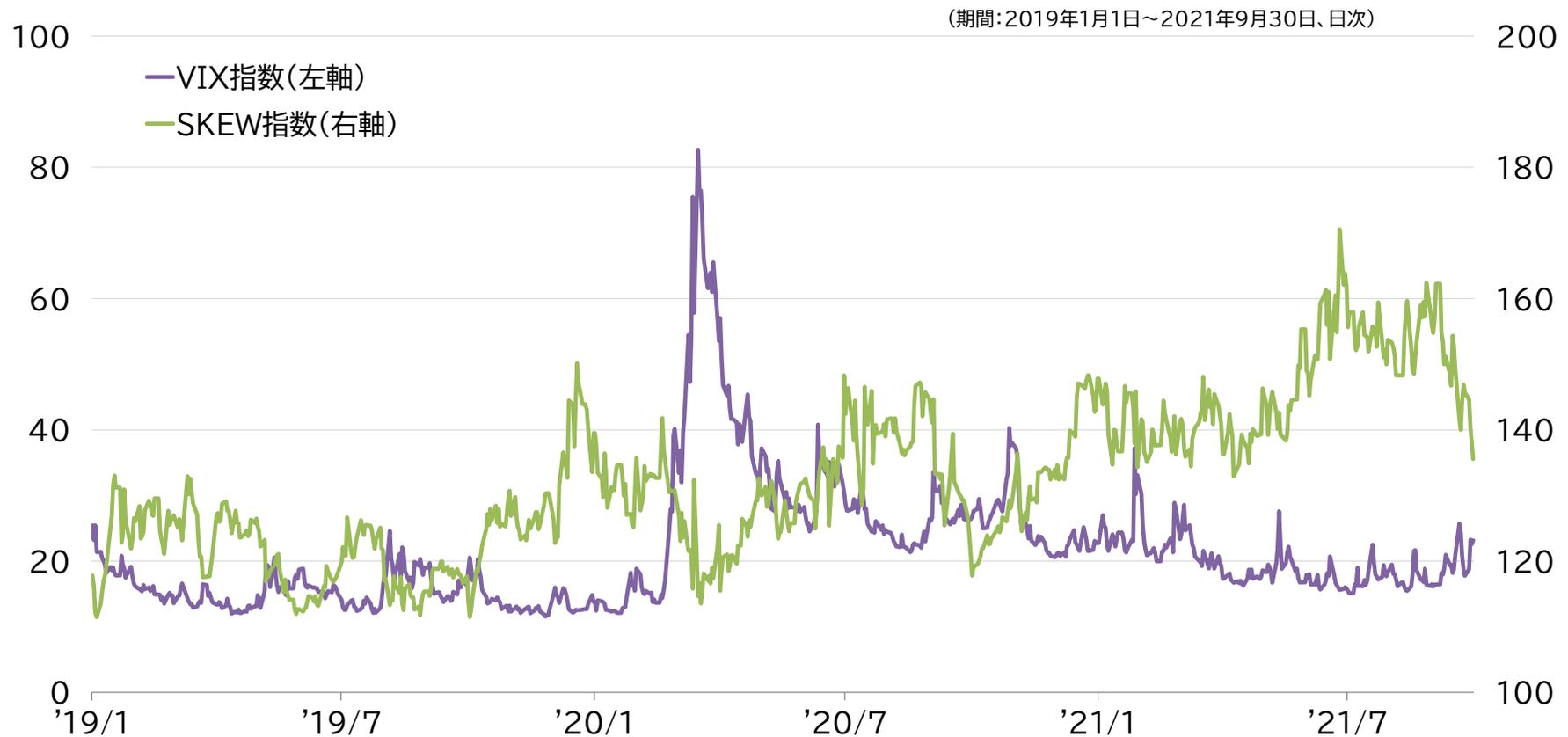
\* EPS=Earnings Per Share(一株当たり純利益)  
(注) 予想EPSは12ヵ月先を使用

(出所) Thomson/Reutersのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

・ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。  
【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

# 今後の運用に際して①

## VIX指数とSKEW指数



(出所)Datastreamを基に三菱UFJ国際投信作成

・ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

# 今後の運用に際して②

## 資産配分詳細 (2021年9月末時点)

分類	比率	資産名	比率
高リスク資産	59.2%	日本株式	2.3%
		米国株式	20.6%
		欧州株式	6.6%
		スイス株式	4.9%
		英国株式	0.3%
		オーストラリア株式	3.3%
		カナダ株式	4.2%
		新興国株式	0.0%
		コモディティ	9.0%
		リート	8.1%
低リスク資産	40.8%	日本国債	4.1%
		米国国債	10.3%
		ドイツ国債	-9.4%
		フランス国債	0.0%
		英国国債	0.0%
		イタリア国債	13.6%
		スペイン国債	0.0%
		オーストラリア国債	-0.1%
		米国インフレ債	8.8%
		投資適格社債	3.9%
		新興国国債	0.0%
		現金等	9.5%

・上記はDMAPファンドの純資産総額対比を基準日時点で計算・表示したものです。

(出所)アリアンツ・グローバル・インベスターズの情報提供を基に三菱UFJ国際投信作成

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。  
【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

最後に:

長期の資産運用に欠かせないバランス型運用～トレンド・アロケーション・オープン～

先行きが不透明な投資環境下だからこそより一層「分散投資」が大切

- 投資対象資産はたくさんあり、その中で値上がりする資産を狙って投資するのはなかなか困難
- できるだけ値動きの異なる資産を複数保有することで、全体で見ると価格変動の影響を抑えることが可能
- 分散投資を行うことで相場下落時には下値抵抗力に期待

※相場上昇時には特定の高リスク資産に集中投資した場合と比べてリターンは劣後する場合があります。

・ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。  
【本映像に関するご注意事項】を必ずご覧ください。

# ファンドの目的・特色(1)

【ファンドの目的】 信託財産の成長を目指して運用を行います。

## 【ファンドの特色】

1. 世界各国の株式・債券・リート等の幅広い資産へ、実質的に投資します。

◆当ファンドは、アリアンツ・グローバル・インベスターズ(以下「アリアンツGI」ということがあります。)が運用を行う「ダイナミック・マルチアセット・プラス・ファンド(JPY)」(以下「DMAPF」ということがあります。)に投資を行います。また、マネー・プール マザーファンドへの投資も行います。

◆DMAPFでは、先進国の国債\*1に投資を行うとともに、世界各国のETF等\*2を利用することで、世界各国の株式・債券・リート等の幅広い資産へ、実質的に投資します。また、組入比率の調整を目的として、世界各国の先物取引も利用します。

\*1 先進国の国債とは、世界銀行の分類を参考に、アリアンツGIが「先進国」と定義した国の国債をいいます。

\*2 ETF等とは、投資成果または償還価額等が金融指標その他の指標等に連動することを目的とする投資信託証券、受益証券発行信託の受益証券および債券で、金融商品取引所に上場されているものをいいます。

2. 安定的な資産成長のために、市場環境に応じて機動的な資産配分を行います。

◆機動的な分散投資の手法で高い専門性を有するアリアンツGIの「ダイナミック・マルチアセット・プラス戦略」を活用します。当戦略は、機動的な資産配分と下落リスク低減のためのリスク管理等の3つの戦略で成り立っており、安定的な資産成長を目指します。

## ファンドの目的・特色(2)

### 3. 為替変動リスクの低減をはかるため、外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行います。

◆為替ヘッジは、DMAPFにて行います。

※一部の通貨については、その通貨との相関が高いと判断される代替通貨等により対円で為替ヘッジを行うことがあります。そのため、完全には為替変動リスクを排除することはできません。

為替ヘッジを行う場合で円金利がヘッジ対象通貨の金利より低いときには、これらの金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上のヘッジコストとなる場合があります。

投資対象国・地域における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等の場合をいいます。)の発生を含む市況動向や資金動向等の事情によっては、特色1～特色3のような運用ができない場合があります。

### 4. 年1回の決算時(1月25日(休業日の場合は翌営業日))に分配金額を決定します。

◆分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。  
(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

# 投資リスク

基準価額は、株式・リート市場の相場変動による組入株式・組入リートの価格変動、金利変動による組入公社債の価格変動、商品価格の変動による組入コモディティの価格変動や為替相場の変動等により上下します。また、組入有価証券等の発行者等の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の影響を受けます。これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。主な変動要因は、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク(デフォルト・リスク)、カントリー・リスク、流動性リスクです。上記は主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。くわしくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

# ファンドの費用

ご購入の際は、投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

※三菱UFJ信託銀行でお申込みの場合

## ◎お客さまが直接的に負担する費用

購入時	購入時 手数料	<p><b>購入金額(購入価額×購入口数)×2.20%(税抜2.00%)</b>で得た額</p> <p>※インターネット取引でご購入の場合は、上記手数料率から10%優遇(除く積立)</p>
換金時	信託財産 留保額	ありません。

### 課税関係

課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人投資者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。

## ◎お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

保有期間中	運用管理費用 (信託報酬)	<p>■当ファンド 日々の純資産総額に対して、<b>年率0.6930%(税抜 年率0.6300%)</b>をかけた額 ※日々計上され、当ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の最初の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時に当ファンドから支払われます。</p> <p>■投資対象とする投資信託証券 投資対象ファンドの純資産総額に対して、<b>年率0.49%程度</b>(マネー・プール マザーファンドは除きます。)</p> <p>■実質的な負担 当ファンドの純資産総額に対して、<b>年率1.1830%程度(税抜 年率1.1200%程度)</b> ※当ファンドの信託報酬率と、投資対象とする投資信託証券の信託(管理)報酬率を合わせた実質的な信託報酬率です。</p>
保有期間中	その他の費用・ 手数料	<p>以下の費用・手数料についても当ファンドが負担します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・監査法人に支払われる当ファンドの監査費用</li> <li>・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料</li> <li>・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用</li> <li>・その他信託事務の処理にかかる諸費用 等</li> </ul> <p>※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。</p> <p>※監査費用は、日々計上され、当ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の最初の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時に当ファンドから支払われます。</p>

※投資対象とする投資信託証券における信託(管理)報酬率を含めた実質的な信託報酬率について、信託財産に関する租税、組入  
有価証券の売買時の売買委託手数料、組入れているETF等の管理費用、信託事務の処理に要する費用、信託財産の監査に要する  
費用、外国投資信託証券のファンド設立に係る費用、法律関係の費用、外貨建資産の保管などに要する費用、借入金の利息およ  
び立替金の利息等は確定していないことなどから、実質的な信託報酬率には含めておりません。

※ファンドの費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはで  
きません。なお、当ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

## 本映像で使用している指数について

### ■S&P500®指数

S&P500®指数とは、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCが公表している株価指数で、米国の代表的な株価指数の1つです。市場規模、流動性、業種等を勘案して選ばれたニューヨーク証券取引所等に上場および登録されている500銘柄を時価総額で加重平均し指数化したものです。

### ■VIX指数

VIX指数(CBOE SPX VOLATILITY INDEX)とは、シカゴ・オプション取引所(CBOE)が米国の主要株価指数の1つであるS&P500株価指数のオプション取引の値動きをもとに算出・公表するものであり、将来の株式市場に対する投資家心理を示すものとして利用されています。

### ■SKEW指数

SKEW指数はブラック・スワン指数とも呼ばれ、株式市場が急落する確率が高いと上昇する指数です。

VIX指数およびSKEW指数は、シカゴ・オプション取引所が所有する登録商標です。

### ■コモディティ価格＝ブルームバーグ商品指数

ブルームバーグ商品指数(Bloomberg Commodity IndexSM)とは、ブルームバーグが公表する、世界の商品(コモディティ)市況の総合的な動きを表すインデックスです。

### ■東証株価指数(TOPIX)

東証株価指数(TOPIX)とは、日本の株式市場を広範に網羅する時価総額加重方式の株価指数で、東京証券取引所が算出しています。

本映像中の指数等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、発行者および許諾者が指数等の正確性、完全性を保証するものではありません。各指数等に関する免責事項等については、委託会社のホームページを合わせてご確認ください。  
(<https://www.am.mufg.jp/other/disclaimer.html>)

## 本映像に関するご注意事項

本映像は「トレンド・アロケーション・オープン」をご理解いただくことを目的に三菱UFJ国際投信が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示ではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

本映像の内容は2021年9月30日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

本映像は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。

本映像は、一部イメージを含んでおります。

投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、消費者保護基金の補償の対象ではありません。

投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

# 最後に

本日は皆さまの貴重なお時間を頂戴し、ご視聴頂きありがとうございました。  
本セミナー内容、およびご紹介いたしました投資信託につきまして、ご質問、お問い合わせなどございましたら、大変恐縮ではございますが下記連絡先までご連絡頂けますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

三菱UFJ国際投信株式会社 お客様サポート部 コールセンター

お客様専用  
フリーダイヤル

**0120-151034**

受付時間:9:00~17:00(土・日・祝日・12月31日~1月3日を除く)

もしくは、お近くの三菱UFJ信託銀行の支店窓口、お取引頂いております三菱UFJ信託銀行の支店担当者までご連絡頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。